東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道徳の時間の年間指導計画（第２学年）

テーマ：みんな　ともだち　ザ・チャレンジ！

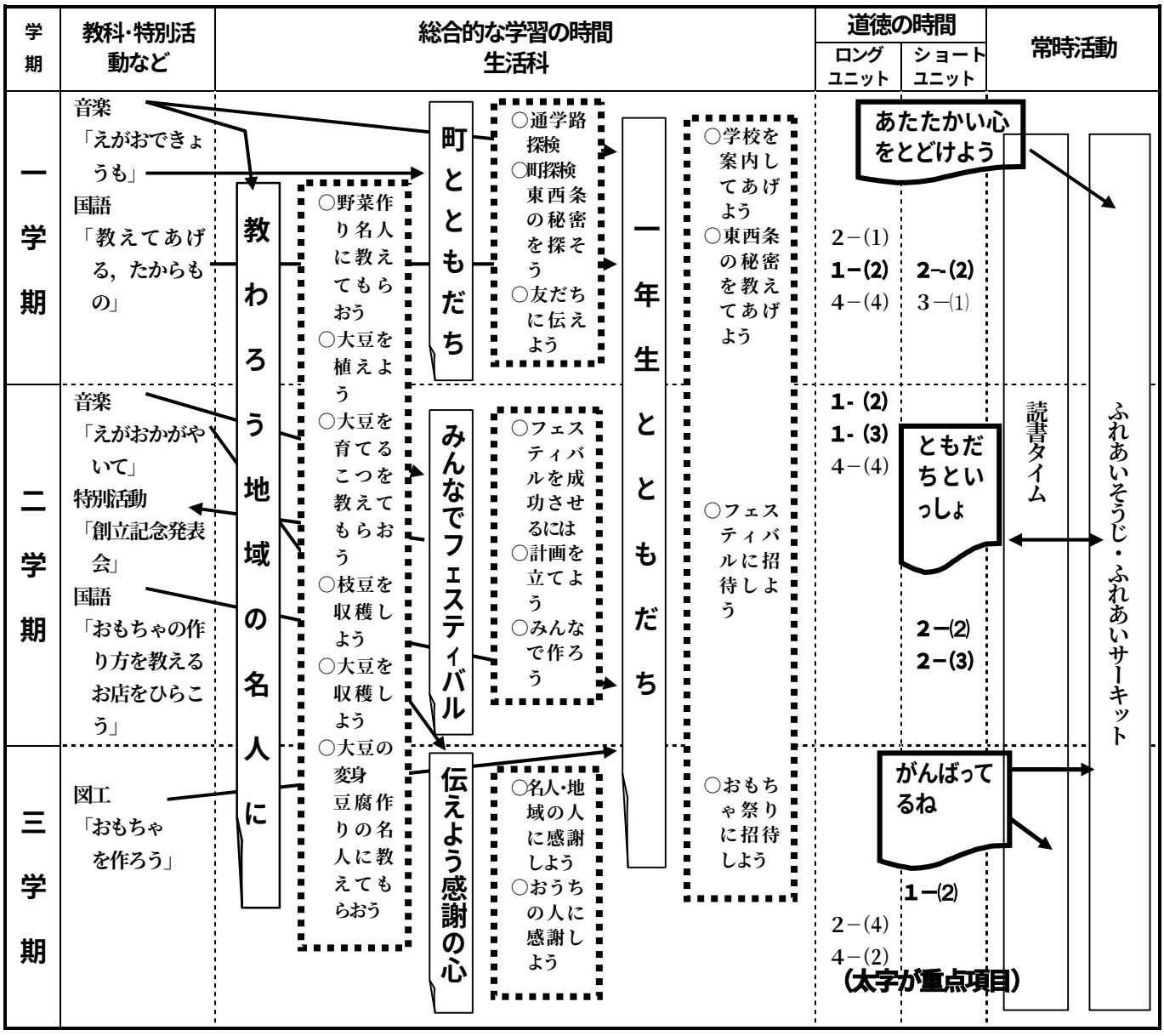
学校教育目標
◎豊かな心をもち，たくましく生きぬく子どもを育成する

道徳教育重点目標
◎　進んで学ぶ子
◎　命を大切にする子
◎　手をつなぐ子

めざす２年生の子どもの姿
○　誰とでも仲良く活動する
○　進んでいろいろなことに挑戦していく
○　最後まであきらめない

道徳の時間の重点内容項目
〈２－(3)信頼友情〉
〈２－(2)思いやり・親切〉
〈１－(3)善悪の判断．勇気〉
〈１－(2)勤勉努力〉

● **重点内容項目の指導構想**



第２学年２組　道徳学習指導案

ともだちといっしょ

「ぐみの木と小鳥」【ショートユニット】　２―(２)　思いやり・親切

出典『あたらしいどうとく』　光文書院

本時のねらい

まわりの人たちに優しく親切にしようとする心情を育てる。

次時の価値へと児童の意識の流れを広げる授業

指導者　東広島市立東西条小学校　山下　房子

１　主題設定の理由

◎ねらいとする価値

相手の立場に立って考えるということは，言葉の上では知っているが，日常の生活場面においては，自分の気持ちのみを優先させて，相手を思いやることができなかったり，自分の非に気付かなかったりすることが多い。思いやりとは，強者の弱者に対する哀れみではない。人間として平等な立場で，相手のことを深く考えることである。低学年の児童にとって，「平等な立場で」の思いやりといっても難しいが，喜んでくれた相手の様子を見て自分も嬉しくなる体験をすることにより，温かい心で接することや親切にしようとする気持ちが深まってくると考える。

◎心に響く資料

主人公の小鳥が激しい風雨の中で，りすのためにぐみの実を届けようと精いっぱい努力する姿が描かれている。どうしようかと迷いながらも，困っているりすを思いやり，飛び立っていった小鳥の心の温かさと強さに触れ，小鳥に共感させながら，思いやりの心をもって親切にすることの大切さに気付くことができる資料である。森の植物や動物の間で交わされる親切な行為や，お互いに他を思いやる美しい気持ちに触れることができ，まわりの人たちに優しく親切にしようとする心情を育てる上で有効な資料である。相手のことを我がことのように心配していく気持ちは，児童にも容易に理解できると考える。嵐の中へ飛び立とうとする小鳥の気持ちに焦点を当てることによって，価値の自覚に迫ることができる。

◎価値の自覚を深める工夫

展開前段で，迷う気持ちと行くことを決めた小鳥に共感させるとともに，たどりついた小鳥とりすを役割演技で対話させることにより，小鳥の満足感を味わわせたい。それが，展開後段で身近な生活場面での思いやりを振り返る上で，大切であると考える。相手が困っている時に手助けができて，互いにうれしくなる気持ちを身の回りの生活の中から見つけ出していくことで，思いやりの気持ちをさらに広げていこうとする意欲を高めることができる。

その気持ちを大切にして，次時の学習で，自分と異なった考え方や行動の仕方をする友だちに出会っても，助け合っていこうとする実践意欲が高まるようにつなげていくことができるよう，同一の視点でユニットを構成した。

◎児童の実態

本学級の児童は，特に男子に活発な児童が多く，友だちと積極的にかかわり合いながら生活している。必要なものがなくて困っていたり，どうしてよいか分からなくて迷っていたりする友だちに対して，声をかけたり手助けしたりする児童の姿もしばしば見られる。しかしながら，その行動は，自分の気持ちのみを優先させていることが多い。また，仲のよい友だちは助けても，親しくない友だちや見ず知らずの人に対しては，心のブレーキがかかってしまう児童も見られる。相手の困っている状態を自分のこととして考えることができるようになれば，まわりの人たちに優しく親切にしようとする気持ちを育てていくことができる。

２　次時の主な学習活動と日常の体験活動との関連

【児童の意識の流れ】

困っている人がいるよ。何をしたらいいかな。

１年生に親切にしたら喜んでくれたよ。

親切にして喜んでもらえてうれしいな。

困っている時に優しく接してもらえたらうれしいものなんだな。

友だちと仲良くできるとうれしいな。

友だちと仲良くできると楽しいな。

友だちに助けてもらったらうれしいものなんだな。

困っている時には，誰とでも助け合っていきたいな。

【道徳】

道徳Ⅰ（10月１日）【本時】
「ぐみの木と小鳥」（光文書院）
２－（２）(思いやり・親切)

道徳Ⅱ（10月８日）【次時】
「森のともだち」(東京書籍)
２－(３)（信頼・友情）

○　友だちと互いに仲良く助け合い，励まし合っていこうとする実践意欲を高める。

１　友だちに助けられたことについて話し合う。

２　資料「森のともだち」を読んで思ったことを話し合う。

①　森の動物たちやこんきちについてどう思いましたか。

②　こんきちを助けたのはどんな気持ちからでしょうか。

③　ぴょん子がおおかみに飛びかかられた時，動物たちはどう思ったでしょう。

④　こんきちは何が恥ずかしくなったのでしょうか。

⑤　こんきちが大声で泣きだしたのはどうしてでしょうか。

３　自分たちの生活の中で，友だちとしてどうするのが正しいのか考えて行動することについて話し合う。

４　学級の中での事例を知る。

【日常の体験活動】

帰りの会
・しあわせ見つけで友だちのよいところやうれしかったことを発表し合う。

ふれあい掃除・ふれあいサーキット
・１年生に教えたり，みんなで協力し合ったりして行動する。

学級活動
・にこにこタイムでみんなが楽しめるように考えて遊ぶ。

めざす子ども像：誰とでも仲良く活動する子

【心のノートの活用】

「あたたかい心をとどけよう」

- P34～35 を見て「あたたかいこころ」を届ける「ゆうびんやさん」を意識する。P36 を読んだ後，これからしてあげたいことを考えて P37 に記入し，まわりの人々に進んであたたかい心を届けようとする意欲を高める。

「友だちといっしょ」

- 道徳Ⅱの授業後 P40～41 に友だちからもらったパワーや自分があげたパワーを記録し，友だちどうし励まし合っていこうとする意欲を高める。

3　本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	**1　困っている人を見た体験を話し合う。** ★今までに近所や学校で困っている人を見たことがありますか。 ・重い荷物を持っているお年寄りを見た。 ・１年生がころんで泣いていた。	○見かけた経験を出し合うことにとどめて，展開後段での話し合いに生かすようにする。
展開前段	**2　資料の前半を読んで，小鳥の気持ちを中心に考える。** ○山かげで病気で寝ているりすを見た時,小鳥はどんなことを思ったでしょう。 ・一人ぼっちでかわいそう。　　・ぐみの木さんも喜んでくれるかな。 ・明日もぐみの実を持ってきてあげよう。 ◎嵐の音を聞きながら，小鳥はどんなことを考えたでしょう。 ・嵐がこわいからやめようかな。 ・りすさんが，待っているだろうな。 ○嵐の中を力をふりしぼって飛んでいる時，小鳥はどんなことを心の中で言っていたでしょう。 ・つらいけれどがんばっていくからね。 ・りすさんに早くなおってほしいからがんばるね。 **3　資料の後半を読んで話し合う。** ○やっとの思いでたどりついた小鳥とりすはどんな話をしたでしょう。 小鳥・りすさん，ぐみを持って来ましたよ。これを食べて早く元気になってね。 ・元気になったら，ぐみの木さんに会いに行こうね。 りす・小鳥さん，ありがとう。嵐の中大変だったでしょう。 ・小鳥さん，ありがとう。ここで休んでいってね。 ・小鳥さん，ケガはしなかった？わざわざありがとう。 ・早く元気になるからね。一緒にぐみの木さんに会いに行ってね。	○導入での困っている人を見た体験を話し合いにつなげて考えさせる。 ○行こうか行くまいか迷う気持ちを引き出しながら，行くことを決めた小鳥の気持ちに共感することができるように，補助発問をする。 ○相手を思いやって行動する小鳥の気持ちを語らせる。 ○役割演技をすることで，してもらった嬉しさ，やり終えた喜びの気持ちが言い表せるようにする。
展開後段	**4　自分の生活を振り返る。** ★☆友だちに何かをしてあげたいと思ったことがありますか。 ・消しゴムを忘れた友だちにすぐに貸してあげたら，喜んでもらえたので嬉しかった。 ・けがをした友だちをすぐに保健室に連れていってあげた。 ・がんばって発表している友だちの意見を最後まで一生懸命聞こうと思った。	○相手が困っている時に手助けができて，お互いに嬉しくなる気持ちを身の回りの中から見つけ出していくことで，思いやりの気持ちを広げていこうとする心情に結びつけられるようにしていく。
終末	**5　「アンパンマン」の絵本の読み聞かせを聞く。** ☆「アンパンマン」のお話を聞きましょう。 ・アンパンマンみたいにみんなに優しくしたいな。	○誰にでも思いやりの気持ちを持って接していこうとする心情へとつなげていく。

○基本発問　◎中心発問　★今までの自分を見つめる発問　☆これからの自分を見つめる発問

4　教師の評価の観点

○道徳的価値（親切・思いやり）を自らとのかかわりでとらえ，相手の立場を考えて行動しようとする心情を高めることができたか。

○次時の価値へと意識の流れを広げる工夫は有効であったか。

5　児童の自己評価の観点

①小鳥の気持ちになって考えることができたか。

②しっかり自分の考えを言うことができたか。

③友だちの考えをしっかり聞くことができたか。

6　資料

ぐみの木と　小鳥

山の上のぐみの木が　まっかなみをつけて　立っていました。

ある日のこと、一わの小鳥がやってきて、ぐみの木にとまって　いいました。

「ぐみの木さん、おなかがすいてこまっています。」

「わたしのみでよかったら、おあがりください。」

小鳥は、ぐみのみを　おいしそうにたべました。ぐみの木は、その小鳥のようすを見て、ともだちのりすさんのことを　おもいだしました。そして、りすさんがこのごろすがたを見せないことを　小鳥さんにはなしました。

「ぼくが　りすさんのようすを見てきてあげましょう。」

小鳥は、ぐみのみをいくつかくわえると、とび立ちました。

小鳥がいってみると、りすはびょう気でねていました。小鳥は、りすのまくらもとにぐみのみをおいていいました。

「ぐみの木さんが　しんぱいしていたよ。」

「ありがとう。」

りすは　すこし元気が出てきたような気もちになりました。

つぎの日も小鳥は、ぐみのみをくわえて、りすのところへとんでいきました。

そのつぎの日は　あらしでした。あらしはやみそうもありません。小鳥は　じっとかんがえていましたが、やがてぐみのみをくわえると、とび立っていきました。はげしい雨とかぜが小鳥のはねにあたって、いまにもじめんにたたきつけられそうです。しかし、小鳥は力をふりしぼってとびつづけました。

やがて　りすさんのうちが見えてきました。まどからはりすさんが　しんぱいそうにこちらのほうを見ているのが見えます。

小鳥は、りすさんのうちめがけて　スピードをあげました。